

令和元年度 補助金交付事業 担当課評価調書

| | | | | |
|-----------|-----------------|--|------------|-------------|
| 担当課・係 | 建設課 | 都市住宅係 | 記載者職・氏名 | 都市住宅係長 長谷川薫 |
| 継続 | 予算事業コード | 5161 | | |
| No. | 401 | 補助金名 | 景観まちづくり助成金 | |
| 根拠法 | 景観まちづくり条例 | | | |
| 交付要綱等名称 | 景観まちづくり助成金交付要綱 | | | |
| 総合計画の位置付け | 施策体系 | 1-1-2 | 景観形成 | |
| | 基本目標 | 下田まち遺産を守り活用し、市民が愛着と誇りを持ち、良好な景観が活かされる、魅力あるまちを目指します。 | | |
| 補助対象者 | 個人（景観的行為を行なうもの） | | 事務局等 | |
| 補助金の性質 | 施策的補助 | | | |
| 補助開始年度 | 22 | 補助終期設定 | なし | 補助率 |
| | | | | 0.5 |
| | | | | 1件当たり補助上限額 |
| | | | | 4,000,000 |

○予算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 予算総額 |
|-----|------|-----------|-----------|
| R02 | 0 | 4,707,000 | 4,707,000 |
| R01 | 0 | 4,000,000 | 4,000,000 |
| H30 | 0 | 2,000,000 | 2,000,000 |

○過去5年間の決算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 決算額 |
|-----|-----------|-----------|-----------|
| H30 | 1,260,945 | 1,260,945 | 2,521,890 |
| H29 | 0 | 208,785 | 208,785 |
| H28 | 0 | 104,000 | 104,000 |
| H27 | 767 | 926,000 | 926,767 |
| H26 | 1,100,000 | 0 | 1,100,000 |

○チェック項目と評価内容

| | |
|----------------|--|
| 事業開始のきっかけ | 景観法施行→景観行政団体→下田景観まちづくり条例の制定（h 22.7施行）に伴い、補助金交付要綱制定 |
| 国・県等の補助の有無 | 基金積立、取崩しあり(H24に200万円) 平成27年度より原則助成金の全額を取り崩すこととなった。 (下田景観まちづくり基金運用委員会で決定) ふるさと納税により、基金への積立額を毎年400万円以上は見込めるため。 また、国により歴史的風致維持向上計画が認定されれば、歴史的風致形成建造物に対する市の助成にまちなみ環境整備事業から交付金を充てることができる(市が支給する補助金の1/2か総事業費の1/3のいずれか低い額)。 |
| 代替手段との比較 | 代替手段はない。今後、歴史的風致維持向上計画が認定され、同計画に基づき歴史的風致形成建造物に認定し、街なみ環境整備事業を活用する場合は、市が支給する補助金に国費が充てられる(市が補助する額の1/2か総事業費の1/3のいずれか低い額。歴史的風致形成建造物を処分しようとする場合、届出が必要など所有者に一定の制限がかけられる。) |
| 当初目的の達成度 | |
| 同一団体への他の補助金の有無 | 場合によっては建設行為における他の補助金の可能性あり |
| 廃止の見込み、廃止の影響 | 廃止は現在考えていない。 |

○評価点（10点満点で評価。上記の※数字が複数あるものは、各項目の点数を平均して表示）

| | | |
|--------------------|--|----|
| 公益性の所在 | ※① 民家等個人対象であるが、良好なまちづくり景観の1つと考えると広がりによって公益性は高まると考える | 7 |
| 市が補助すべき理由 | ※② 今後の景観まちづくりを考えると必要性は高いと考える ふるさと納税に伴う景観まちづくり基金を活用しているため、積極的に補助すべきである | 9 |
| 目的・内容 | ※② 景観まちづくりに著しく寄与する行為に対する財政支援として、各行為に対し費用の1/2の補助金を交付。H31以降、歴史的風致維持向上計画（H30認定予定）に歴史的風致形成建造物の修繕に対しては、費用の2/3(まちなみ環境整備事業を活用することで、市が支給する補助の1/2か総事業費の1/3のいずれか低い額が国から市へ交付される。)、上限は通常の行為の2倍(修繕2,000千円、活用8,000千円)の補助金の交付を行いたい。 | 10 |
| 補助金の主な使途 | ※③ 景観に寄与する、建物修繕や各行為に対する補助となる。景観まちづくり助成金交付要綱等の改正を予定している。(街並み整備などにも活用できるようにしたい) | 8 |
| 予算要求額の算出根拠・算出方法 | ※③ まち遺産の改修等 簡易修繕計画に基づく修繕 上限1,000千円 保全活用計画に基づく修繕 上限4,000千円 維持管理計画に基づく修繕 上限 100千円 重点地区内建築物 外観修繕 上限 500千円 新築 上限2,000千円 各協定・イベント助成 上限30千円 各々実施額の1/2を上限以内で補助 H30年度 簡易計画修繕 2,000千円(2件) H31年度 簡易計画修繕 2,000千円(2件) 歴史的風致形成建造物修繕 2,000千円(1件) R02年度 簡易計画修繕 2,800千円(2件)→基金充当、 歴史的風致形成建造物修繕 1,200千円(1件) →1/2国交付金、1/2基金充当 | 8 |
| 繰越額・積立額と補助金交付額との比較 | ※④ 事業費の1/2（歴史的風致形成建造物の場合は2/3）の補助であり、現状では上回ることはないと考え。 | 10 |
| 成果・費用対効果 | ※④ H23 簡易修繕計画修繕 2件 1,225,000円 H24 保全活用計画修繕 1件 4,000,000円+簡易修繕2件 1,225,000円 H25 簡易修繕計画修繕 2件 1,194,506円 維持管理計画修繕 1件 100,000円 H26 簡易修繕計画修繕 1件 1,000,000円 維持管理計画修繕 1件 100,000円 H27 簡易修繕計画修繕 2件 926,767円 H28 簡易修繕計画修繕 1件 104,000円 H29 景観まちづくり協定団体 3件 208,785円 H30 簡易修繕計画修繕 2件 1,053,510円 景観まちづくり協定団体 3件 207,435円 登録まち遺産の保全の一助になっている。 個々に対する助成だけでなく、全体計画・誘導・整備も成果への必須事項と考える。 | 8 |

①公益性 7

②必要性 10

③適格性 9

④効果 8

令和元年度 補助金交付事業 担当課評価調書

| | | | | | | | |
|-----------|---------------------------|--|---------------------|-------------|------|------------|--------|
| 担当課・係 | 建設課 | 都市住宅係 | 記載者職・氏名 | 都市住宅係長 長谷川薫 | | | |
| 継続 | 予算事業コード | 5620 | | | | | |
| No. | 402 | 補助金名 | 下田市木造住宅補強計画策定事業費補助金 | | | | |
| 根拠法 | なし | | | | | | |
| 交付要綱等名称 | 下田市木造住宅耐震補強計画策定事業費補助金交付要綱 | | | | | | |
| 総合計画の位置付け | 施策体系 | 1-2-4 | 住宅 | | | | |
| | 基本目標 | 安心・安全な生活を守るため、市営住宅の整備や住宅の耐震化の支援を推進します。 | | | | | |
| 補助対象者 | 個人（住宅の耐震改修計画を行おうとする者） | 事務局等 | | | | | |
| 補助金の性質 | 施策的補助 | | | | | | |
| 補助開始年度 | 14 | 補助終期設定 | 31 | 補助率 | 0.67 | 1件当たり補助上限額 | 96,000 |

○予算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 予算総額 |
|-----|------|------|------|
| R02 | 0 | 0 | 0 |
| R01 | 0 | 0 | 0 |
| H30 | 0 | 0 | 0 |

○過去5年間の決算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 決算額 |
|-----|------|------|-----|
| H30 | 0 | 0 | 0 |
| H29 | 0 | 0 | 0 |
| H28 | 0 | 0 | 0 |
| H27 | 0 | 0 | 0 |
| H26 | 0 | 0 | 0 |

○チェック項目と評価内容

| | |
|----------------|---|
| 事業開始のきっかけ | 静岡県が進める「プロジェクトTOUKAI-0」の一環として耐震補強助成事業から派出し、H20年度から実施 |
| 国・県等の補助の有無 | 補助対象額(限度額) 一般世帯96,000円 高齢者世帯144,000円 一般世帯 国:1/3 48,000円 県:1/6 24,000円 計 72,000円 高齢者世帯 国:1/3 48,000円 県:1/3 48,000円 計 96,000円 |
| 代替手段との比較 | 個人住宅の倒壊防止(耐震化)を目途とする1つの方法であり全てではないため、他にも方法はあるが、選択の1つとしてこの事業も必要と考える。 |
| 当初目的の達成度 | 平成14年度～ 想定該当戸数5,120戸の内17戸(H28まで) 0.33% |
| 同一団体への他の補助金の有無 | 事業の流れとして、「木造住宅耐震補強助成事業補助金」とは、ほぼセットとなる補助金 |
| 廃止の見込み、廃止の影響 | 廃止の場合、住宅の耐震化の一助になっていると考えるため、耐震化が後退方向になるのではと考える為、国県補助があるかぎり廃止はないと考える。 |

○評価点 (10点満点で評価。上記の※数字が複数あるものは、各項目の点数を平均して表示)

| | | |
|--------------------|--|----|
| 公益性の所在 | ※① 各個人住宅への補助 | 7 |
| 市が補助すべき理由 | ※② 近い将来想定される東海地震・南海トラフ巨大地震等による家屋倒壊を防ぐことにより 人的安全性の確保、建物周辺に対し安全性の確保 | 7 |
| 目的・内容 | 地震発生時における住宅の倒壊による災害を防ぐため、補強計画に対しての費用の2/3の補助金を交付。H25.6より高齢者(65歳以上)世帯を10/10にしている。 | 8 |
| 補助金の主な使途 | 住宅補強計画費 | 9 |
| 予算要求額の算出根拠・算出方法 | ※③ 耐震改修設計時全住宅@144千円(限度額)/件 負担割合: 国48千円、県24千円、市24千円=96千円×1件=96千円 個人 残額 H29年 4件(高齢者世帯2件、一般世帯2件) 高齢者 国:48千円、県:48千円、市:48千円⇒@144千円×2件=288千円 一般世帯 国:48千円、県:24千円、市:24千円⇒@96千円×2件=192千円 H30年 4件(高齢者世帯2件、一般世帯2件) 高齢者 国:48千円、県:48千円、市:48千円⇒@144千円×2件=288千円 一般世帯 国:48千円、県:24千円、市:24千円⇒@96千円×2件=192千円 ※H31から計画作成と補強工事を一体的に行う場合に補助する国の新制度に移行予定 | 8 |
| 繰越額・積立額と補助金交付額との比較 | 委託費に対する補助 実質委託費が対象額を上回ると考える | 10 |
| 成果・費用対効果 | ※④ H24まで計画6件 H25計画2件 H26計画3件 H27計画0件 H28計画2件 H29計画4件 建物の耐震化が本来目的のため、補強工事等(建替も含め)への誘導が必要 | 5 |

①公益性 7

②必要性 8

③適格性 9

④効果 5

令和元年度 補助金交付事業 担当課評価調書

| | | | | |
|-------|-----|-------|---------|-------------|
| 担当課・係 | 建設課 | 都市住宅係 | 記載者職・氏名 | 都市住宅係長 長谷川薫 |
|-------|-----|-------|---------|-------------|

| | | |
|----|---------|------|
| 継続 | 予算事業コード | 5620 |
|----|---------|------|

| | | | |
|-----|-----|------|---------------------|
| No. | 403 | 補助金名 | 下田市木造住宅耐震補強助成事業費補助金 |
|-----|-----|------|---------------------|

| | |
|-----|----|
| 根拠法 | なし |
|-----|----|

| | |
|---------|-------------------------|
| 交付要綱等名称 | 下田市木造住宅耐震補強助成事業費補助金交付要綱 |
|---------|-------------------------|

| | | |
|-----------|------|--|
| 総合計画の位置付け | 施策体系 | 1-2-4 住宅 |
| | 基本目標 | 安心・安全な生活を守るため、市営住宅の整備や住宅の耐震化の支援を推進します。 |

| | | |
|-------|-----------------------|------|
| 補助対象者 | 個人（住宅の耐震改修工事を行おうとする者） | 事務局等 |
|-------|-----------------------|------|

| | |
|--------|-------|
| 補助金の性質 | 施策的補助 |
|--------|-------|

| | | | | | | | |
|--------|----|--------|----|-----|------|------------|-----------|
| 補助開始年度 | 14 | 補助終期設定 | なし | 補助率 | 設定なし | 1件当たり補助上限額 | 1,150,000 |
|--------|----|--------|----|-----|------|------------|-----------|

○予算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 予算総額 |
|-----|------|------|------|
| R02 | 0 | 0 | 0 |
| R01 | 0 | 0 | 0 |
| H30 | 0 | 0 | 0 |

○過去5年間の決算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 決算額 |
|-----|------|------|-----|
| H30 | 0 | 0 | 0 |
| H29 | 0 | 0 | 0 |
| H28 | 0 | 0 | 0 |
| H27 | 0 | 0 | 0 |
| H26 | 0 | 0 | 0 |

○チェック項目と評価内容

| | |
|----------------|--|
| 事業開始のきっかけ | 静岡県が進める「プロジェクトTOUKAI-0」の一環として |
| 国・県等の補助の有無 | H23まで 一般 上限300,000円 内県300,000円 高齢者世帯 上限500,000円 内県400,000円 H24 (市上乗せ+200,000円) 一般 上限500,000円 内県300,000円 高齢者世帯 上限700,000円 内県400,000円 H29 (H29.1~H30.3限定 耐震補強PR住宅) ⇒後に県PR住宅補助はH32まで継続決定 一般 上限800,000円 内県450,000円 高齢者世帯 上限1,000,000円 内県550,000円 H30 (県PR住宅上乗せ、市DID地区上乗せ) 一般 上限950,000円 内県450,000円 高齢者世帯 上限1,150,000円 内県550,000円 |
| 代替手段との比較 | 地震に対し家屋倒壊を少なくするという事業目的であり、個人での建替から公共的な安全住宅の提供等、耐震化として官民様々な方法を考えるうちの1つと考えるため、代替の比較はない。 |
| 当初目的の達成度 | 平成14年度～ 想定該当戸数5,120戸の内 20戸(H29まで) 0.39% |
| 同一団体への他の補助金の有無 | 事業の流れとして「木造住宅耐震補強計画策定事業費補助金」はほぼセット補助金、その他リフォーム関連、福祉施策関連等、住宅改修に携わる補助金の上乗せとして考えられる。 |
| 廃止の見込み、廃止の影響 | 廃止の場合、住宅耐震化の一助となっていると考えるため、耐震化が後退方向になるのではないかと考える為、県補助がある限り廃止はないと考える。 |

○評価点（10点満点で評価。上記の※数字が複数あるものは、各項目の点数を平均して表示）

| | | |
|--------------------|---|----|
| 公益性の所在 | ※① 各個人住宅への補助 倒壊により周辺への影響は考えられる。 場所により（避難路沿い等）公益性の差はでる。 （それに対応する独自助成も検討余地有としてきたが、H30以降は人口集中地域を対象にH29限定の耐震補強PR住宅と同額の助成を行いたい。） | 8 |
| 市が補助すべき理由 | ※② 近い将来想定される東海地震・南海トラフ巨大地震等による家屋倒壊を防ぐことにより人的安全性の確保、建物周辺に対し安全性の確保 | 8 |
| 目的・内容 | 地震発生時における住宅の倒壊による災害を防ぐため、補強工事に対し補助金を交付。 | 10 |
| 補助金の主な使途 | 住宅補強工事費 | 9 |
| 予算要求額の算出根拠・算出方法 | ※③ 県の算出根拠による 一般住宅 @500千円/件 県：300千円 市：200千円 高齢者住宅@700千円/件 県：400千円 市：300千円 H29 一般2件×800千円 高齢2件×1,000千円 計3,600千円 一般 @800千円/件 県:450千円 市:350千円 高齢 @1,000千円/件 県:550千円 市：450千円 ※H29までの時限増額（PR住宅）⇒H32まで県制度は継続となった。 H30 一般2件×950千円 高齢2件×1,150千円 計4,200千円 【PR分】県補助が150千円嵩上 一般 @650千円/件 県：450千円 市：200千円 高齢 @850千円/件 県：550千円 市：300千円 【上乗せ地区分】市補助が300千円嵩上。PR分の県補助150千円の重複嵩上可。 一般 @800千円/件 県：300千円 市：500千円 高齢 @1,000千円/件 県：400千円 市：600千円 ※H31～計画作成と補強工事が一体的に行う場合に補助する国の新制度に移行予定。 | 8 |
| 繰越額・積立額と補助金交付額との比較 | 工事費に対しての補助 実質工事費が対象額を上回ると考える。 | 10 |
| 成果・費用対効果 | ※④ 耐震補強工事 H24まで 10件 H25 2件 H26 3件 H27 0件 H28 1件 H29 4件 計補助事業 20件 | 5 |

①公益性 8

②必要性 9

③適格性 9

④効果 5

令和元年度 補助金交付事業 担当課評価調書

| | | | | | | | |
|-----------|------------------------|------------------------|--------------------|-------------|-----|------------|---------|
| 担当課・係 | 建設課 | 都市住宅係 | 記載者職・氏名 | 都市住宅係長 長谷川薫 | | | |
| 継続 | 予算事業コード | 5620 | | | | | |
| No. | 404 | 補助金名 | ブロック塀等耐震改修促進事業費補助金 | | | | |
| 根拠法 | なし | | | | | | |
| 交付要綱等名称 | ブロック塀等耐震改修促進事業費補助金交付要綱 | | | | | | |
| 総合計画の位置付け | 施策体系 | 4-3-1 防災 | | | | | |
| | 基本目標 | 防災意識が高く、災害に強いまちを目指します。 | | | | | |
| 補助対象者 | 個人（ブロック塀を撤去改善する者） | 事務局等 | | | | | |
| 補助金の性質 | 施策的補助 | | | | | | |
| 補助開始年度 | 24 | 補助終期設定 | なし | 補助率 | 0.5 | 1件当たり補助上限額 | 250,000 |

○予算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 予算総額 |
|-----|---------|---------|---------|
| R02 | 192,000 | 573,000 | 765,000 |
| R01 | 225,000 | 225,000 | 450,000 |
| H30 | 225,000 | 225,000 | 450,000 |

○過去5年間の決算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 決算額 |
|-----|---------|---------|---------|
| H30 | 386,605 | 383,000 | 769,605 |
| H29 | 225,000 | 225,000 | 450,000 |
| H28 | 145,912 | 145,000 | 290,912 |
| H27 | 44,300 | 44,000 | 88,300 |
| H26 | 41,868 | 40,000 | 81,868 |

○チェック項目と評価内容

| | |
|----------------|---|
| 事業開始のきっかけ | 地震時にブロック塀が転倒し、人的被害、避難路等を塞ぐ場合が想定されるので、それらを防ぐため。 |
| 国・県等の補助の有無 | 道路・通路沿い 撤去工事 上限100,000円 避難路等特定道路沿い 改善等 上限250,000円 各々県1/2 |
| 代替手段との比較 | 特にないと考える。 |
| 当初目的の達成度 | 未制定 |
| 同一団体への他の補助金の有無 | 特にないと考える。 |
| 廃止の見込み、廃止の影響 | 該当案件が全て改修されれば廃止となると考える。 |

○評価点（10点満点で評価。上記の※数字が複数あるものは、各項目の点数を平均して表示）

| | | |
|--------------------|---|----|
| 公益性の所在 | ※① 各個人への補助 転倒に対し、通行人の被災、避難路の閉鎖等、影響は周辺に及ぶため公益性は高いと考える。 市避難路の位置づけがあれば、改善も対象になりより公益性は増す（検討余地有） | 8 |
| 市が補助すべき理由 | ※② 人的被害の縮小、避難路等の確保と市域全体の安心なまちづくりに寄与すると考える。 | 9 |
| 目的・内容 | ※② ブロック塀等の地震による転倒を防ぐため、基準に合わないものの撤去・改善するために必要な工事に対する費用の1/2の補助金を交付。 | 9 |
| 補助金の主な用途 | ※② ブロック塀の撤去・改善工事費 | 9 |
| 予算要求額の算出根拠・算出方法 | ※③ 県の補助基準による 撤去 8,900円/m×延長×1/2 上限100,000円 改善 38,400円/m×延長×1/2 上限250,000円 H30年度 撤去 2件×100,000円 改善 1件×250,000円 計450,000円 H31年度 撤去 2件×100,000円 改善 1件×250,000円 計450,000円 R02年度 撤去 2件×100,000円 改善 1件×250,000円 計450,000円 | 8 |
| 繰越額・積立額と補助金交付額との比較 | ※③ 工事費の実費に対しての補助のため、上回る事はないと考える。 | 10 |
| 成果・費用対効果 | ※④ H24 撤去 2件 撤去+改善 1件 H25 0件 H26 撤去 2件 H27 撤去 2件 H28 撤去 1件 撤去+改善 1件 H29 撤去 1件 H30 撤去 7件 改善 1件 | 5 |

①公益性 8

②必要性 9

③適格性 9

④効果 5

令和元年度 補助金交付事業 担当課評価調書

| | | | | |
|-------|-----|-------|---------|-------------|
| 担当課・係 | 建設課 | 都市住宅係 | 記載者職・氏名 | 都市住宅係長 長谷川薫 |
|-------|-----|-------|---------|-------------|

| | | |
|----|---------|------|
| 継続 | 予算事業コード | 8100 |
|----|---------|------|

| | | | |
|-----|-----|------|----------------|
| No. | 405 | 補助金名 | 下田駅構内トイレ管理費補助金 |
|-----|-----|------|----------------|

| | |
|-----|----|
| 根拠法 | なし |
|-----|----|

| | |
|---------|-------------------|
| 交付要綱等名称 | 下田駅便所管理運営費補助金交付要綱 |
|---------|-------------------|

| | | |
|-----------|------|--|
| 総合計画の位置付け | 施策体系 | |
| | 基本目標 | |

| | | | |
|-------|---------|------|---------|
| 補助対象者 | 伊豆急行(株) | 事務局等 | 伊豆急行(株) |
|-------|---------|------|---------|

| | |
|--------|--------|
| 補助金の性質 | 活動費的補助 |
|--------|--------|

| | | | | | | | |
|--------|---|--------|----|-----|-----|------------|----|
| 補助開始年度 | 8 | 補助終期設定 | なし | 補助率 | 0.5 | 1件当たり補助上限額 | なし |
|--------|---|--------|----|-----|-----|------------|----|

○予算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 予算総額 |
|-----|-----------|------|-----------|
| R02 | 1,223,000 | 0 | 1,223,000 |
| R01 | 1,223,000 | 0 | 1,223,000 |
| H30 | 1,205,000 | 0 | 1,205,000 |

○過去5年間の決算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 決算額 |
|-----|-----------|------|-----------|
| H30 | 1,064,109 | 0 | 1,064,109 |
| H29 | 1,010,979 | 0 | 1,010,979 |
| H28 | 1,037,877 | 0 | 1,037,877 |
| H27 | 1,056,897 | 0 | 1,056,897 |
| H26 | 993,772 | 0 | 993,772 |

○チェック項目と評価内容

| | |
|----------------|--|
| 事業開始のきっかけ | 下田駅前広場に公衆便所が無く、駅前広場利用者は駅の便所を使用せざるを得ない現状を鑑み、駅前広場特別会計より支出。 |
| 国・県等の補助の有無 | なし |
| 代替手段との比較 | 利用者のため公衆便所を新設する建設費、維持管理費等に比べると安価であると考え。 |
| 当初目的の達成度 | 利用者からの苦情は特になし。 |
| 同一団体への他の補助金の有無 | この事業に対してはなし |
| 廃止の見込み、廃止の影響 | 公衆便所としての使用に支障が出る可能性がある。 |

○評価点 (10点満点で評価。上記の※数字が複数あるものは、各項目の点数を平均して表示)

| | | |
|--------------------|--|----|
| 公益性の所在 | ※① 不特定多数の人が利用している。 | 8 |
| 市が補助すべき理由 | ※② 下田駅付近にトイレはなく、利用者は多い。 | 8 |
| 目的・内容 | ※② 下田駅前広場の公衆衛生の向上を図るため、構内トイレの管理運営に係る費用の1/2の補助金を交付。 | 8 |
| 補助金の主な使途 | ※② 公衆便所維持管理費の1/2 | 8 |
| 予算要求額の算出根拠・算出方法 | ※③ 人口減少や観光客数減少により公衆便所の利用者数も減少している可能性はあるが、公衆便所を適切に管理するためにも例年どおりの補助は必要と思われる。 H30(人件費499千円+下水道使用料1,421千円+消耗品490千円)×50%=1,205千円 H31(人件費499千円+下水道使用料1,448千円+消耗品499千円)×50%=1,223千円 R02(人件費500千円+下水道使用料1,450千円+消耗品500千円)×50%=1,225千円 | 8 |
| 繰越額・積立額と補助金交付額との比較 | ※③ 実施経費の1/2補助であるため、上回る事はないと考える。 | 10 |
| 成果・費用対効果 | ※④ 補助事業により伊豆急行(株)下田駅運営経費の負担減により平成14年度には改修工事を行うこともでき、駅前広場利用者にとってより一層利用しやすい公衆便所としての役割を担っている。 | 8 |

| | |
|------|---|
| ①公益性 | 8 |
|------|---|

| | |
|------|---|
| ②必要性 | 8 |
|------|---|

| | |
|------|---|
| ③適格性 | 9 |
|------|---|

| | |
|-----|---|
| ④効果 | 8 |
|-----|---|

令和元年度 補助金交付事業 担当課評価調書

| | | | | |
|-------|-----|-------|---------|-------------|
| 担当課・係 | 建設課 | 都市住宅係 | 記載者職・氏名 | 都市住宅係長 長谷川薫 |
|-------|-----|-------|---------|-------------|

| | | |
|----|---------|------|
| 継続 | 予算事業コード | 5600 |
|----|---------|------|

| | | | |
|-----|-----|------|--------------|
| No. | 406 | 補助金名 | 下田市営住宅共益費補助金 |
|-----|-----|------|--------------|

| | |
|-----|----------|
| 根拠法 | 下田市営住宅条例 |
|-----|----------|

| | |
|---------|------------------|
| 交付要綱等名称 | 下田市営住宅共益費補助金交付要綱 |
|---------|------------------|

| | | | |
|-----------|------|--|----|
| 総合計画の位置付け | 施策体系 | 1-2-4 | 住宅 |
| | 基本目標 | 安心・安全な生活を守るため、市営住宅の整備や住宅の耐震化の支援を推進します。 | |

| | | |
|-------|----------------|------|
| 補助対象者 | 大沢・上河内市営住宅(組合) | 事務局等 |
|-------|----------------|------|

| | |
|--------|--------|
| 補助金の性質 | 運営費的補助 |
|--------|--------|

| | | | | | | | |
|--------|----|--------|----|-----|----|------------|----|
| 補助開始年度 | 28 | 補助終期設定 | なし | 補助率 | なし | 1件当たり補助上限額 | なし |
|--------|----|--------|----|-----|----|------------|----|

○予算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 予算総額 |
|-----|---------|------|---------|
| R02 | 205,000 | 0 | 205,000 |
| R01 | 171,000 | 0 | 171,000 |
| H30 | 167,000 | 0 | 167,000 |

○過去5年間の決算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 決算額 |
|-----|---------|------|---------|
| H30 | 200,844 | 0 | 200,844 |
| H29 | 175,272 | 0 | 175,272 |
| H28 | 210,432 | 0 | 210,432 |
| H27 | 0 | 0 | 0 |
| H26 | 0 | 0 | 0 |

○チェック項目と評価内容

| | |
|----------------|--|
| 事業開始のきっかけ | 大沢市営住宅における合併浄化槽の保守点検料及び清掃費の未納に伴い組合費の不足(空室分)分の相談による |
| 国・県等の補助の有無 | なし |
| 代替手段との比較 | 特に代替手段はなし。 |
| 当初目的の達成度 | |
| 同一団体への他の補助金の有無 | なし |
| 廃止の見込み、廃止の影響 | |

○評価点 (10点満点で評価。上記の※数字が複数あるものは、各項目の点数を平均して表示)

| | | |
|--------------------|--|----|
| 公益性の所在 | ※① 市営住宅入居者の負担軽減 | 7 |
| 市が補助すべき理由 | ※② 入居者の退居等に伴う新入居者の募集が、予算的(修繕等)なことに伴い遅れることにより組合費が徴収できないため、その分の必要経費となる共益費分(電気・水道・浄化槽維持費)は市が負担するものとする。(退去した月の翌月から起算して、3月を経過した住宅に交付する。) | 8 |
| 目的・内容 | 市営住宅(大沢・上河内)入居者の組合費の一部となる共益費(電気代・水道代・浄化槽保守点検及び清掃費)に伴う空室分の負担を軽減するため | 8 |
| 補助金の主な使途 | 共益費(電気代(基本料金のみ)・水道代・浄化槽保守点検及び清掃費)の負担割合分 | 9 |
| 予算要求額の算出根拠・算出方法 | ※③ H31 171千円 大沢 対象経費824千円/管理戸数30戸×空室戸数3戸≒83千円 旧大沢 対象経費58千円/管理戸数6戸×空室戸数2戸≒20千円 上河内住宅 対象経費507千円/管理戸数30戸×空室戸数4戸≒68千円 R02 171千円 大沢 対象経費809千円/管理戸数30戸×空室戸数3戸≒81千円 旧大沢 対象経費57千円/管理戸数6戸×空室戸数2戸≒19千円 上河内住宅 対象経費497千円/管理戸数30戸×空室戸数4戸≒67千円 | 9 |
| 繰越額・積立額と補助金交付額との比較 | ※④ 実質経費の負担割合分が交付額となる。 | 10 |
| 成果・費用対効果 | ※④ 市営住宅の適切な維持管理に繋がり、組合(入居者同士)の円滑な運営に繋がる。 | 8 |

| | | | | | | | |
|------|---|------|---|------|---|-----|---|
| ①公益性 | 7 | ②必要性 | 8 | ③適格性 | 9 | ④効果 | 8 |
|------|---|------|---|------|---|-----|---|

令和元年度 補助金交付事業 担当課評価調書

| | | | | |
|-------|-----|-------|---------|-------------|
| 担当課・係 | 建設課 | 都市住宅係 | 記載者職・氏名 | 都市住宅係長 長谷川薫 |
|-------|-----|-------|---------|-------------|

| | | |
|----|---------|------|
| 継続 | 予算事業コード | 5620 |
|----|---------|------|

| | | | |
|-----|-----|------|-------------------------|
| No. | 407 | 補助金名 | 下田市避難路沿道建築物の耐震対策促進事業補助金 |
|-----|-----|------|-------------------------|

| | |
|-----|-------------------------------|
| 根拠法 | プロジェクト「TOKAI-0」総合支援事業費補助金交付要綱 |
|-----|-------------------------------|

| | |
|---------|---------------------------------|
| 交付要綱等名称 | (仮称)下田市避難路沿道建築物の耐震対策促進事業補助金交付要綱 |
|---------|---------------------------------|

| | | |
|-----------|------|----------|
| 総合計画の位置付け | 施策体系 | 1-2-4 住宅 |
|-----------|------|----------|

| | | |
|--|------|--|
| | 基本目標 | 安心・安全な生活を守るため、市営住宅の整備や住宅の耐震化の支援を推進します。 |
|--|------|--|

| | | |
|-------|------------------|------|
| 補助対象者 | 第1次緊急輸送路沿道建築物所有者 | 事務局等 |
|-------|------------------|------|

| | |
|--------|-------|
| 補助金の性質 | 施策的補助 |
|--------|-------|

| | | | | | | | |
|--------|----|--------|----|-----|---|------------|----|
| 補助開始年度 | 31 | 補助終期設定 | なし | 補助率 | 1 | 1件当たり補助上限額 | なし |
|--------|----|--------|----|-----|---|------------|----|

○予算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 予算総額 |
|-----|------|-----------|-----------|
| R02 | 0 | 0 | 0 |
| R01 | 0 | 5,300,000 | 5,300,000 |
| H30 | 0 | 0 | 0 |

○過去5年間の決算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 決算額 |
|-----|------|------|-----|
| H30 | 0 | 0 | 0 |
| H29 | 0 | 0 | 0 |
| H28 | 0 | 0 | 0 |
| H27 | 0 | 0 | 0 |
| H26 | 0 | 0 | 0 |

○チェック項目と評価内容

| | |
|----------------|--|
| 事業開始のきっかけ | 静岡県が進めるプロジェクト「TOUKAI-0」の一環として避難路指定により耐震診断を義務付ける沿道建築物に対する補助制度の実施予定に伴うもの（H29から県により補助制度が設けられる予定であったが、H31から取り組みたい旨連絡有） |
| 国・県等の補助の有無 | 耐震診断：国1/2、県1/2の予定 |
| 代替手段との比較 | 特にない。 |
| 当初目的の達成度 | |
| 同一団体への他の補助金の有無 | |
| 廃止の見込み、廃止の影響 | 該当する建築物の耐震診断をすべて実施した時点で廃止となる。 |

○評価点（10点満点で評価。上記の※数字が複数あるものは、各項目の点数を平均して表示）

| | | |
|--------------------|---|----|
| 公益性の所在 | ※① 指定された避難路沿道建築物所有者への補助 人的被害の縮小、緊急輸送路(避難路)の確保と市全体の安心なまちづくりに繋がるため、公益性は高いと考えられる。 | 8 |
| 市が補助すべき理由 | ※② 人的被害の縮小及び緊急輸送路(避難路)の確保へと繋がるため(建物所有者等へ補助する者は、市町とされているため) | 7 |
| 目的・内容 | | 9 |
| 補助金の主な用途 | 耐震診断費用 | 10 |
| 予算要求額の算出根拠・算出方法 | ※③ 緊急輸送路(国道414号線)沿で、市内では63棟が該当。 県は5年間で耐震診断を終了させる計画で、国に申請している(下田市は年12棟の診断が必要)。 ・平均面積 13,175㎡÷63棟=209㎡ ・県による㎡当たり単価 2,094円/㎡ ・下田市の1棟当たりの平均額 209㎡×2,094円=437,646円 ・算出根拠 437,646円×12棟=5,251,752円→5,300,000円 | 10 |
| 繰越額・積立額と補助金交付額との比較 | 耐震診断の費用と同額の補助額となる | 10 |
| 成果・費用対効果 | ※④ 耐震診断を実施しただけでは費用対効果はあまりなく、その後、補強計画、耐震改修へと進むことにより効果が得られる。 | 7 |

| | | | | | | | |
|------|---|------|---|------|----|-----|---|
| ①公益性 | 8 | ②必要性 | 8 | ③適格性 | 10 | ④効果 | 7 |
|------|---|------|---|------|----|-----|---|

令和元年度 補助金交付事業 担当課評価調書

| | | | | |
|-------|-----|-------|---------|-------------|
| 担当課・係 | 建設課 | 都市住宅係 | 記載者職・氏名 | 都市住宅係長 長谷川薫 |
|-------|-----|-------|---------|-------------|

| | | |
|----|---------|------|
| 継続 | 予算事業コード | 5620 |
|----|---------|------|

| | | | |
|-----|-----|------|----------------|
| No. | 408 | 補助金名 | 木造住宅耐震改修事業費補助金 |
|-----|-----|------|----------------|

| | |
|-----|----|
| 根拠法 | なし |
|-----|----|

| | |
|---------|--------------------------|
| 交付要綱等名称 | 下田市木造住宅耐震改修事業費補助金交付要綱(仮) |
|---------|--------------------------|

| | | |
|-----------|------|--|
| 総合計画の位置付け | 施策体系 | 1-2-4 住宅 |
| | 基本目標 | 安心・安全な生活を守るため、市営住宅の整備や住宅の耐震化の支援を推進します。 |

| | | |
|-------|-------------|------|
| 補助対象者 | 住宅の耐震改修を行う者 | 事務局等 |
|-------|-------------|------|

| | |
|--------|-------|
| 補助金の性質 | 施策的補助 |
|--------|-------|

| | | | | | | | |
|--------|----|--------|----|-----|----|------------|----|
| 補助開始年度 | 31 | 補助終期設定 | なし | 補助率 | なし | 1件当たり補助上限額 | なし |
|--------|----|--------|----|-----|----|------------|----|

○予算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 予算総額 |
|-----|-----------|-----------|-----------|
| R02 | 1,100,000 | 1,700,000 | 2,800,000 |
| R01 | 2,200,000 | 3,400,000 | 5,600,000 |
| H30 | 0 | 0 | 0 |

○過去5年間の決算額

| 年度 | 一般財源 | 特定財源 | 決算額 |
|-----|-----------|-----------|-----------|
| H30 | 0 | 0 | 0 |
| H29 | 0 | 0 | 0 |
| H28 | 0 | 0 | 0 |
| H27 | 1,500,000 | 4,500,000 | 6,000,000 |
| H26 | 0 | 0 | 0 |

○チェック項目と評価内容

| | |
|----------------|--|
| 事業開始のきっかけ | 従来の補強計画作成と補強工事の別々での補助ではなく、国の新制度を活用した「木造住宅耐震補強助成事業(補強計画一体型)」への制度移行を促されており、当該制度に則った事業をH31から行う。 |
| 国・県等の補助の有無 | 1戸当たり最大1,000,000円補助(ただし、工事費の8割が上限)。 一般世帯：国1/2 500千円、県3/10 300千円 合計800千円(市負担 200千円) 高齢者等：国1/2 500千円、県2/5 400千円 合計900千円(市負担 300千円) |
| 代替手段との比較 | 個人住宅の倒壊防止(耐震化)を目的とする1つの方法であり、他にも方法はあるが、選択肢の1つとして、有効な事業であると考ええる。 |
| 当初目的の達成度 | |
| 同一団体への他の補助金の有無 | |
| 廃止の見込み、廃止の影響 | 住宅耐震化の一助となっているため、廃止した場合、耐震化の進行が停滞すると考えられる。 |

○評価点 (10点満点で評価。上記の※数字が複数あるものは、各項目の点数を平均して表示)

| | | |
|--------------------|---|----|
| 公益性の所在 | ※① 各個人住宅への補助。 居住者はもとより、近隣住民の避難の円滑化を図ることができる。 | 7 |
| 市が補助すべき理由 | ※② 近い将来想定される東海地震・南海トラフ巨大地震等による家屋倒壊を防ぐことにより人的安全性の確保、建物周辺に対し安全性の確保を図る。 地震発生時における住宅の倒壊による災害を防ぐため、補強計画作成と補強工事を一体的に実施する場合に補助する。 | 7 |
| 目的・内容 | | 8 |
| 補助金の主な使途 | 住宅補強計画作成、補強工事費 | 9 |
| 予算要求額の算出根拠・算出方法 | ※③ H30までの制度では、市負担額は4件で計画作成144千円、補強工事2,200千円の合計2,344千円。H31以降はDⅠD地区内を同額で設定しても、負担する額は2,200千円となり、従前の制度に対し、144千円の市負担の減額ができる。 R02 4件(①一般世帯2件、②高齢者等世帯2件) ①国500千円+県300千円+市200千円+市DⅠD地区300千円=1,300千円 ②国500千円+県400千円+市300千円+市DⅠD地区300千円=1,500千円 合計2,800千円×2=5,600千円 | 0 |
| 繰越額・積立額と補助金交付額との比較 | 耐震化に対しての補助 費用が対象額を上回る。 | 10 |
| 成果・費用対効果 | ※④ H31～実施予定であるため、成果なし | 0 |

| | | | | | | | |
|------|---|------|---|------|---|-----|---|
| ①公益性 | 7 | ②必要性 | 8 | ③適格性 | 6 | ④効果 | 0 |
|------|---|------|---|------|---|-----|---|